

第2回

お話と体験1

(1) プログラム

日 時 | 6月26日(日) 9:30 ~ 12:00

会 場 | 江東区役所7階 第71~73会議室

内 容 | ゲスト1のお話と体験

- ・前回のふりかえりをした後、1人目のゲストのお話と、お話に関連した体験を行いました。

タイムテーブル |

- 9:30 (10分) あいさつ
- 9:40 (15分) 前回のふりかえり、本日の進め方
- 9:55 (45分) 【ゲスト1 | お話】日本ユニバーサルレジャー協会 長田麻希さん
- 10:40 (15分) ~休憩(会場設営)~
- 10:55 (45分) 【ゲスト1 | 体験】価値観の違いを体感するワーク
~深掘り自己紹介~
グループワーク | シーンを想定した深掘り自己紹介
- 11:40 (20分) 全体 | 発表(1分×5グループ)
個人ワーク | お話や体験で印象深かったことを付箋にメモ

(2) ゲスト1のお話

日本ユニバーサルレジャー協会 (ULO)

長田麻希 (ながた まき) さん

長田さんが立ち上げから関わっている「日本ユニバーサルレジャー協会」は、以下の理念を掲げ、「支える」「支えられる」関係性にならない、一緒に楽しむことをねらいとしている団体です。

▼理念 「一緒に、遊ぼう。」

健常者と障がい者、ちがいを気にせず言い出すきっかけをわたしたちは作り続けます。

▼ビジョン D&I を当たり前

互いのことを分からなくても自分とちがうことが分かればいい。

不安や楽しさ、互いの気持ちに触れてみる。

「やってみたい」をどうすれば一緒にできるかを考え続けます。

▼ミッション 遊ぶことから、やってみよう

やらなきゃいけないわけじゃない。

湧いてくる好奇心、「やってみたい」と思うことが遊びなんです。

(3) 体験1 深掘り自己紹介

●体験のねらい

- ・日常生活でのあるシーンを想定し、自分はどんな行動をとるかをグループで出しあいます。「どうして私はそのような行動をとったのか」を自分自身や聞いているメンバーで深掘りします。
- ・他の人の行動の背景を理解し、共有することによって、お互いの違いに気づき、人それぞれの好み、特徴、立場等、多様な要因があることをじっくり考えてみます。
- ・「障害がある人は、困っているに違いない」という思い込みから考えるのではなく、「やり方の違い」から考えることで、一方的な支援ではなく、「お互いに」必要な問題解決のあり方を考えるきっかけにします。

●進め方

- ・自己紹介 (名前、所属等)。
- ・下記シーンから1つ選び、そのシーンを頭に描けた人から発言します。

《日常生活のシーンの例》

シーン1 | 1) コンビニで何を買う？

2) どうやってコンビニや商品を選んでいる？

3) その他コンビニのあるあるは？

シーン2 | 1) 苦手な食べ物は？

2) その理由は？

3) その他、食べ物あるあるは？

シーン3 | 1) 運動で苦手なことは？

2) その理由は？

3) その他、運動あるあるは？

- ・発言者に対して、聞いているメンバーは「どうして?」「なんで?」と投げかけ、深掘りしていきます。

(4) お話と体験の感想 (○付き数字はグループ番号)

1 コンビニエンスストアとスーパーマーケット、どっちに行く？

■スーパーの方が使いやすい

- ・コンビニは入口に段差があったり、車いすが入れるトイレがないこともある。スーパーに行くことが多い。①
- ・スーパーは通路幅が広く、品出し等をしているスタッフも多くて嬉しいやすい。①
- ・車いす利用者だとコンビニは手が届かない商品が多いが、店員が少なく頼みにくい。大きなスーパーは店員が多くて頼みやすい。②

■コンビニはコンパクトで使いやすい

- ・視覚障害者には、スーパーは広すぎて、どこに何があるかやスタッフがどこにいるかを想像しにくい。コンビニは、どこに店員がいるかが大体わかる。①
- ・視覚障害者(弱視)の私には、コンビニは照明が明るく、ビニル袋の音がするので、入口が見つけやすい。適度な広さで商品の並べ方にも法則性があったり、「お手伝いしますか」の声かけもあるので使いやすい。②

■店に入るのを躊躇する時がある

- ・コンビニは、急いでいる人がいく所。自分もたまたましてしまうと焦ることがある。特に子連れの時には、外から見てレジに人が並んでいたら入らない。④
- 車いす利用者からすると、他店に行こうと思えるのは選択肢がある人の贅沢な人の話。④

■コンビニを使う理由 いろいろ

- ・一人暮らしのビール好き。ビールに合うチキンを色々なコンビニで食べ比べする。②
- ・ポイントをためているコンビニで、息子のお弁当の冷凍食品を買う。②
- ・子どもが休日に部活に行く時の昼ごはんを買う。研究みたいに「美味しいお弁当があるかな？」と試している。②
- ・雑誌コーナーにまず立ち寄るのがクセ。学生時代は立ち読みが習慣だった。②
- ・木場公園を一周すると5000歩。その後コンビニで牛乳を買う。散歩の理由付け。②

2 コンビニで困ること

■店員に聞けない時の商品選びは困る

- ・コンビニでおにぎり等を買うが、昼の混雑時や自分が急いでいる時は、何味かわからないまま適当に選ぶ。ロシアンルーレットのよう。隣ではなく少し離れて陳列されたものを選び、違う味になることをねらっている。①
- ・触ってわかることもある。「パリパリおにぎり」と「しっとりおにぎり」では形が違う、パリパリおにぎりは中が白米であることが多い。①
- ・陳列棚に点字が表示されていると、選びやすいか？①

→ 陳列棚に点字があっても、会計後に一緒に袋に入れると結局わからなくなる。個々のパッケージに点字がついているのがよい。①

■機械化で困っていること(セルフレジ等)

- ・コピーを利用するが、機械が苦手なので空いている時に店員に頼む。③
- ・コロナ禍で、現金から電子マネーが多くなった。支払い方法が色々でわかりにくい。③
- ・車いす利用者にとって、セルフレジの電子マネーカードを当てる位置が高い。また操作ができる高さの時も、準備に時間がかかり元の画面に戻ってしまうことがある。④
- ・セルフレジは、右利き用につくられている。左利きの人には使いにくい。④
- ・セルフレジの画面は、日本語がまだよくわからない外国人でも使えるのだろうか。④
- ・セルフレジに慣れている若者からすると、店員と話さなくてよいので楽な感じもある。セルフレジで困っている人がいた時、サポートしたことがある。④

■足元に商品が多い

- ・音が聞こえず後ろの状況を把握することができない。通路が狭いと足元の商品に転びそうになる。店内をもっと整理してほしい。③

■店員とのコミュニケーション

- ・聴覚障害があるので、マスクをしている店員とはコミュニケーションがとりにくい。ATMは、銀行はスタッフ対応があるが、コンビニではスタッフ対応は難しい。③
- ・レジ袋に関して音声テープが流れる店がある

とは知らなかった。レジ袋についてだけ、どうして音声テープにしているかはわからない。⑤

- ・コンビニの店員に外国の方がいる。日本語がたどたどしくて一生懸命で応援したくなる。心の中でエールを送っている。⑤
- ・コンビニでアルバイトをしている外国人は、現地では裕福で優秀な留学生が多い。母国語に加え日本語もできて尊敬。⑤
- ・コンビニで外国人の店員にレトルトカレーを尋ねた時、なかなか理解してもらえず困ったことがある。①
- ・たばこを買う際レジで番号を伝えるが、店員が外国人の場合、伝わらない場合がある。声だけでなく、ジェスチャーで数字を示して相手に伝わりやすい方法を考えている。⑤
- ・急ぎボールペンが必要で購入した際に、店員に「袋を開けましょうか?」と言われて嬉しかった。そういう気づかいは嬉しい。⑤
- ・コンビニでのアルバイトをしている時、お客さんからお礼を言われると嬉しい。⑤

3 スポーツ関連の自己紹介

- ・右半身不随になり左手を使うようになった。昔はサーフィンをやっていたが、車いすでは浜辺に近づけないので残念。これからはギターを弾きたい。左手でコードを押さえ右手ではピッキングをする。②
- ・スキーが好き。見えている時は力づくでターンしていたが、見えなくなって足の内側の筋肉に意識が行き、力が抜けてターンが綺麗になった。最初は足がすくみ、肩が筋肉痛に。よほど緊張して力が入っていたのだと思う。②
- ・息子が小学生の頃、野球のノックをした。ねらいの場所に高いフライを上げるのは難しかった。②
- ・スポーツ全般得意だが、ダンスは苦手。リズム感や身体の動かし方が難しい。②
- ・スポーツは苦手だが、ダンスは好き。音楽が好きで、音楽にノルのが好き。スポーツは、スキーで骨折したトラウマがある。②
- ・ボーリングが好き。左右両方の手で投げられる。アベレージ左 120 右 130。右手を骨折した時に左手を使ってから、右脳活性化にも役だつと思っただけで使うようになった。②
- ・スポーツは全般的に得意で、バスケットをやって

いた。サッカーもやっていたが膝を怪我して、今はやりたいけれどできなくなっている。②

4 深掘り自己紹介の感想

- ・身近なコンビニ利用の話題で、こんなにエピソードが出たのは驚き! ①
- ・シンプルな事柄にこんなに多様な視点が存在しているとしたら、世界中の全てを網羅するには数え切れない視点があるのだろうと気が遠くなった。②
- ・全盲の方にとってのコンビニは、独特な匂いや音（自動ドア・店内音）で場所を感じることや、タッチパネル式の決済は使用できない等、初めて知った。③
- ・自分には便利なことも、立場が違えばそうではないことを実感。元アルバイト店員の立場からも、セルフレジで負担が減って楽になった一方、困る人がいることを知った。③
- ・コンビニでは、セルフレジのカード挿入口に手が届かなかったり、右利き用にデザインされている等、普段気がつかない使いづらさが印象深かった。④
- ・コンビニの話から国籍の話まで、深掘りできた。人それぞれ見ているものが異なる。⑤
- ・障害者の感じ方は「目からウロコ」が多く、自分の方が偏っていると気づいた。②
- ・みんなと自分の価値観、考え方、見る視点の違いがあり、様々な意見・個性があると改めて感じた。②
- ・ビニルの音や匂いでコンビニがあるとわかる等、参考になる意見が多かった。②
- ・車いす使用者の方は、コンビニの棚に並べられた商品は自分で取れないものが多いが、スタッフが少ないので頼めない、というお話は印象深かった。②
- ・スポーツで怪我をしてトラウマになり、やりたい気持ちはあるができない、という方もいることを知った。②
- ・目が見えなくなって、むしろスキーが上達したという話には驚いた。挑戦する気持ちは大事。②
- ・コンビニのカウンターは銀行より低くて、車いす使用者にとっては使いやすいという話は印象的。②